

青木信仰さんを偲ぶ

古在由秀 (ぐんま天文台)

晩年は体調が優れなかったと聞いていた青木信仰さんが、2011年10月9日に亡くなった。

青木さんは1927年8月30日生まれ、東京都立第九中学4年終了で第一高等学校に進み、1947年に東京大学理学部天文学科に入学した。この年は、天文学科の定員5名に対し40名の受験生があり、天文学科の合格者の最低点は物理学科より上であったと、天文教室主任の萩原先生は自慢しておられた。また、青木さんは、理学部受験生のなかでの最高点をとったという噂があった。

一方、在学中に病にかかり、2年遅れて1952年に卒業した。天体力学専攻で、卒業論文は「トロヤ群小惑星の運動」についてであり、1955年の日本天文学会欧文報告誌(PASJ)に出版されている。

卒業後すぐに東大理学部の助手に採用され、麻布の天文教室に勤務していた。当時の主たる研究題目は、一様でないことが明らかになってきた地球の自転に基づく時刻系に、代わり導入されてきた、太陽の動きを基にした時刻系の暦表時についてであった。

5年後に東京天文台天文計算部に配置換えになり、その直後のスプートニク1号衛星の打ち上げを契機として、人工衛星の運動にも興味をもつようになり、1961年6月から1年間、アメリカ・NASAのゴダード・スペース・フライト・センターで、臨界傾斜角をもつ人工衛星の研究に従事した。

帰国後、1963年4月に講師、66年4月に助教授、70年4月に教授に昇任している。この間、「時刻系への相対論の効果」、「地球のコア-マントル間の摩擦による黄道傾斜角の変化」などの論文を書き、天文定数系の問題について、これが主たる議題であった、IAUの関連委員会に大きな貢献をしていた。

また、大学院生を指導して、銀河の平衡形状モデルについても、多くの論文を発表し、天文定数系についても、木下宙、福島登志夫氏などの共



写真1 1974年ワシントン空港にて、右側は故 鯨目信三氏

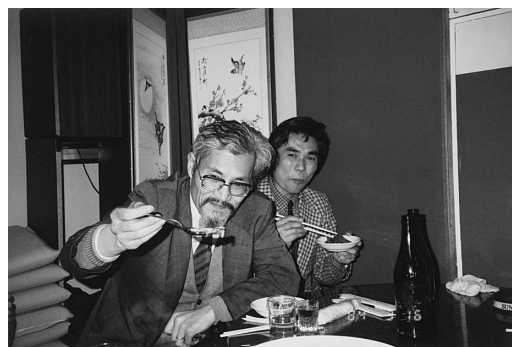


写真2 1984年 右側は中嶋浩一氏

著の論文も多い。また、関連の海上保安庁水路部、国土地理院、緯度観測所の非常勤研究員も毎年のように兼務していた。東京天文台でも定年前の数年間、天文時部長も兼任した。

青木さんの学識を基にして執筆し、1982年に出版された『時と暦』(東京大学出版会)は名著で、筆者もしばしば参考にさせてもらっている。日本天文学会では、庶務理事をしていた。

青木さんは独自の研究スタイルをもち、東京天文台退職後に東京大学名誉教授の称号を受けたが、その後も吉祥寺の自宅から自転車で三鷹まで通って、熱心に仕事をしていましたが、病気には勝てなかったことが、残念である。